

2025年4月社長会見



2025年4月18日

1. 営業・輸送概況

2. バリアフリー整備の進捗状況について

3. 車椅子ご利用者の列車乗降時の安全性・利便性向上

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

まず、営業・輸送概況です。

収入ですが、3月は前年比で105.5%、4月は14日までで103.5%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
3月	105.5%	104.5%	105.1%	107.7%
4月(4/1~14)	103.5%	104.5%	106.2%	99.4%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況ですけれども、山陽新幹線は、3月が前年比で103%、4月が14日までで105%、近畿圏につきましては、3月が103%、4月が14日までで102%です。

3月からこの4月半ばにかけてまして、引き続き、多くの国内旅行のお客様、そして訪日のお客様にご利用いただいております。新幹線・在来線ともに堅調に推移している状況です。

ご案内のように13日より大阪・関西万博が開幕しておりますけれども、多くのお客様に安心してご利用いただけるように、私どもとしてもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同日比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
3月	103%	112%	99%	103%	102%
4月(4/1~14)	105%	99%	104%	102%	101%

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記しています。

2. バリアフリー整備の進捗状況について

次に、バリアフリーの整備状況についてご案内をさせていただきます。

バリアフリー整備の進捗状況



鉄道駅バリアフリー料金制度を活用したホーム柵、ホーム安全スクリーンの整備

2032年度末までに整備対象エリアの全駅にホーム柵・ホーム安全スクリーンを整備

[整備の考え方]

ホーム柵整備を基本とし、2033年度以降にホーム柵が整備されるのりばにはホーム安全スクリーンを整備

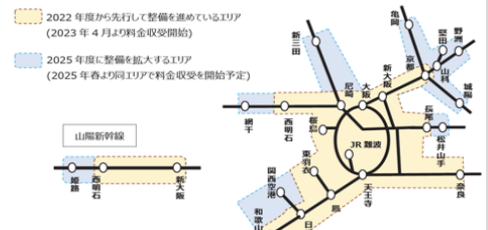
『JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027』の2027年度の到達目標

取り組む内容	2027年度の到達目標
バリアフリー料金制度対象駅のうち、 ①乗降10万人以上の駅にホーム柵を整備 ②乗降10万人未満の駅にはホーム柵またはホーム安全スクリーンを整備	①整備率6割 ②整備率5割

- ・2025年4月1日より、電車特定区間・大阪環状線・幹線の運賃を平準化
- ・これにより、鉄道駅バリアフリー料金制度の適用エリア拡大

(整備する設備)

ホーム柵、ホーム安全スクリーン、エレベータ、ホームと車両の段差・隙間縮小



「ホーム柵」や、センサによりお客様の転落を検知して列車を止める「ホーム安全スクリーン」の整備につきましては、2023年4月に設定しました「鉄道駅バリアフリー料金」を活用いたしまして、『JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027』に定める到達目標の実現に向けまして、整備を進めているところです。

2025年、この4月1日には、京阪神エリアにおける運賃体系の平準化を目的とした運賃見直しに伴い、「鉄道駅バリアフリー料金制度」の適用エリアも同時に拡大いたしまして、より広い範囲でバリアフリー整備が可能となりました。

こうした点を踏まえまして、ホーム柵及びホーム安全スクリーンの最新の整備計画につきまして、お知らせさせていただきます。

ホーム柵の整備実績・計画（2027年度末時点）



2027年度末時点で25駅78番線に整備予定



可動式ホーム柵



昇降式ホーム柵

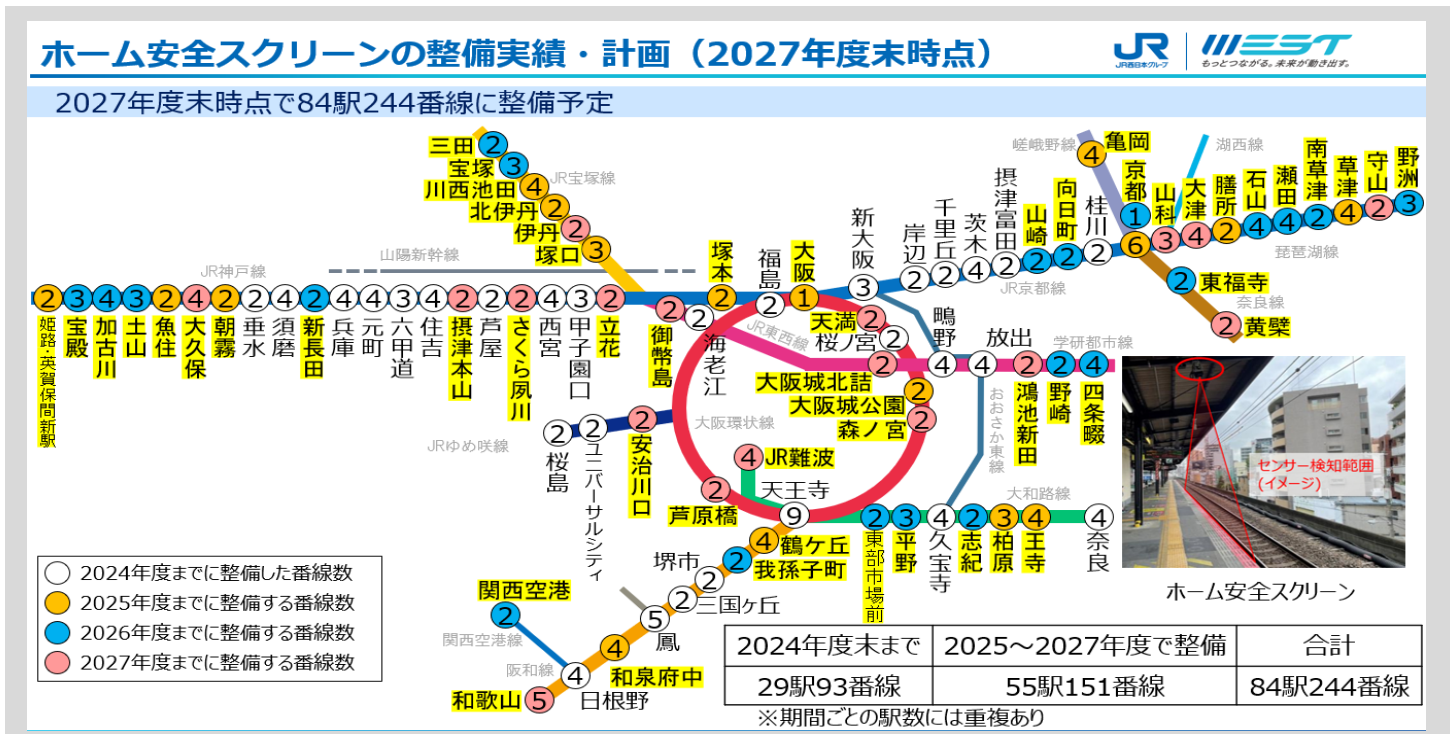
2024年度末まで	2025～2027年度で整備	合計
18駅50番線	12駅28番線	25駅78番線

※期間ごとの駅数には重複あり

まずは、ホーム柵の整備計画でございますが、これまで、大阪駅や三ノ宮駅など、ご利用が多い駅を中心に整備を進めまして、2024年度には、大阪・関西万博で多くのお客様にご利用いただくことが想定されます西九条駅や弁天町駅で整備を進めてまいりました。この結果、2024年度末時点で、18駅50番線での整備を完了しております。

今後は、京都駅・天王寺駅・尼崎駅のほか、今回バリアフリー料金の適用が広がったエリアである新三田駅など、新たに12駅28番線への整備を2027年度末までに進めてまいります。

続きまして、「ホーム安全クリーン」の整備計画です。



こちらは、2024年度までに、新大阪駅・福島駅・芦屋駅など、京阪神の都市部を中心に、29駅93番線での整備を完了しております。

今後、東は野洲駅から、西は2026年春、開業を予定しております姫路・英賀保間の新駅まで、広い範囲での整備を計画しております。2027年度末では、55駅151番線への整備を進めてまいります。

引き続き、皆様により安全・安心にご利用いただけますように、様々なバリアフリー整備を進めてまいります。

3. 車椅子ご利用者の列車乗降時の安全性・利便性向上

最後に、車椅子ご利用者のお客様が、列車へスムーズに乗り降りいただけるための安全性・利便性向上の取り組みについてご案内をさせていただきます。



当社では、「長期ビジョン2032」におきまして、「すべての人に安全で安心してご利用いただける鉄道サービス」を実現したい未来として掲げまして、また「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」におきましても、ホームの安全対策の一つとしまして、ホームと車両の「段差や隙間の解消の取り組み」を進めているところです。


車椅子ご利用者の列車乗降時の安全性・利便性向上

可動スロープ開発の経緯

段差隙間解消の取り組み
 鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、お客様のご理解とご協力をいただきながら、**段差・隙間縮小【かさあげ・くし状ゴム整備】を実施中**（整備目安値：段差30mm、隙間70mm以内を目指す）
大阪環状線・JRゆめ咲線の一部の駅で整備


車椅子をご利用のお客様がスムーズに乗降いただける環境づくりを目指し、ホームと列車の段差・隙間を**自動的に**可変的に埋め、スロープ機能を果たす装置の開発

開発の変遷




2018年度

アイデア公募の実施



2019年度

試作機(初期)による検証



2021年度

実駅下での検証(桜島)

「段差・隙間解消の取り組み」につきましては、大阪環状線やJRゆめ咲線のホームとの段差や隙間が大きい一部の駅で、ホーム自体の高さをあげる「かさあげ」工事や、「ホームとの隙間をくし状のゴムで埋める設備（くし状ゴム）」の整備を進めているところです。

また、車いすをご利用のお客様が、列車へスムーズに乗り降りいただける環境づくりを目指しまして、2018年度以降、ホームと列車の段差・隙間を全自動で埋めていく「可動スロープ」の開発を進めているところです。

車椅子ご利用者の列車乗降時の安全性・利便性向上



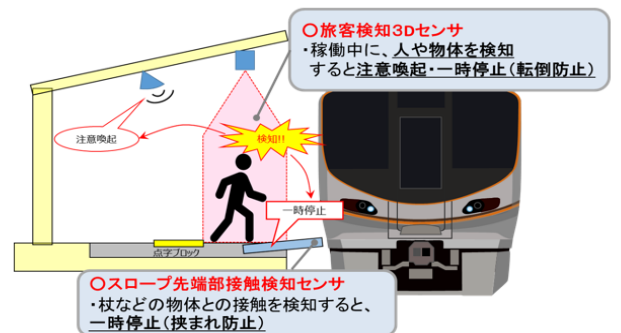
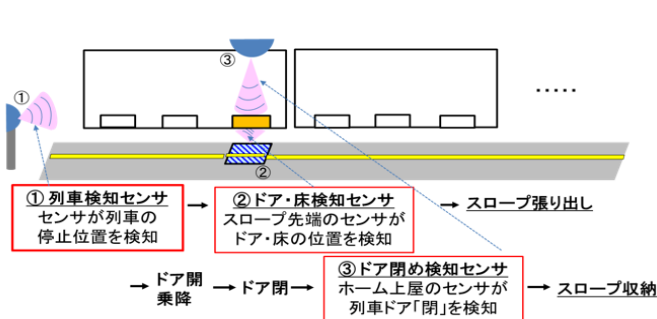
本装置の仕組みと特徴

○可動スロープの動作

- ① 「列車検知センサ」が列車の到着を検知
- ② スロープ先端のセンサが乗降口とホームとの距離を計測し、スロープが自動的に張り出し、段差・隙間を埋める ※張出時間：約5秒
- ③ 乗降完了後、列車のドアが閉まると、スロープを自動で収納

○安全装置

スロープの稼働中に、センサが周囲の人や物体を検知する、またはスロープ先端が杖などの物体との接触を検知すると、自動音声により注意喚起し、スロープの動作を一時停止する（転倒防止、挟まれ防止）



この「可動スロープ」は、まず「列車検知センサ」によりまして、列車が駅に到着したことを検知いたします。

次に、この可動スロープが、先端に埋めこまれたセンサによりまして、列車の乗降口とホームの段差と隙間を埋めながら自動的に張り出してまいります。

そしてお客様の乗降が終わった後、ホーム上のセンサで列車のドアが閉まったことを検知すると、張り出したスロープを自動的に収納する仕組みとなっています。

「可動スロープ」には安全装置も備えておりまして、例えば、ホームの天井部に設置します、「旅客検知3Dセンサ」がスロープの稼働中に人や物体を検知すると、音声による注意喚起を行うとともに、人が乗った状態ではスロープが動かないよう一時停止をいたします。

このような、自動でホームと列車の段差・隙間両方を埋める装置は、実用化ができれば鉄道事業者で初めての事例になるかと思えます。

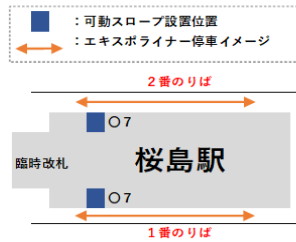
現地検証の概要と今後の展望

検証開始日

2025年4月21日(予定)～2025年10月(万博開催期間) ご利用可能時間：10時～20時

設置箇所

- ・新大阪駅 2番のりば (足元△2付近)
- ・桜島駅 1, 2番のりば (足元○7付近)



概要

- ・万博期間中、エキスポライナーにご乗車のお客様で、新大阪・桜島両駅が発着のご旅行であれば、「乗り・降り」どちらの場面でもご利用いただけるよう可動スロープの設置を進める



より多くの駅での稼働を目指し、
本装置をご利用いただいたお客様の利便性について検証を重ねる

今回、万博期間中に多くのお客様がご利用いただく新大阪駅と桜島駅に設置しまして、より多くの駅で稼働させるための検証を重ねてまいります。

新大阪駅と桜島駅にスロープが稼働することで、車いすのお客様が万博期間中に運行する「エキスポライナー」をご利用される場合には、よりスムーズに乗り降りいただくことができるのではないかと考えております。

この「可動スロープ」によりまして、車椅子をご利用のお客様のシームレスな移動の一助になればと考えているところです。